

夢

なかるべからず



その眼光、虎の如く

おおさこ りょうさん
大迫 亮

右ストレート

後 楽園ホールは興奮の渦に包まれていた。史上二人目のボクシング「高校6冠」を達成した男のプロデビュー戦。プロ6勝をあげている外国人選手を相手に、軽快に足を使い、

的確にジャブを浴びせる。右ストレートで、2ラウンド終了間際にダウンを奪い、続く3ラウンドに同じ右ストレートで試合を終わらせた。プロボクサー大迫亮。二十歳。試合後の歓声の中、彼一人は遠く未来を見据えていた。



プロ2戦を鮮やかなKOで飾る

活動が終わってから、毎日ジムに通った。友達と普通に遊べなかつたり、減量はつらかったが、ジム通いが日常となった。いつの間にか大迫は、自身も気付かないうちに中学生ボクサーとして知られる存在になっていた。高校での戦績を見ると、中学までの評価を更に上回る戦いぶりを見せる。1年生では史上初の国体少年ミドル級優勝を果たし、3年生まで少年初の3連覇

高校6冠

所 属するジムには、常盤小2年の時から通っている。父親がジムに通い始めたので、一緒について行った。「少し肥満気味だったから」その理由でサンドバッグを叩き始めた。幡羅中入学後も、部

世界への階段

を成し遂げる。高校選抜大会も2連覇、高校総体も制し「高校6冠」を達成した。

高 校のボクシングタイトルを総なめにした大迫だが、「小さいときからお世話になっ

て、評価は日増しに高まるが、「今はじっくり体を作って、二十五歳までには世界を目指したいです」あくまで殊勝で落ち着いた大迫の言葉は、耳に心地よく響く。

夢七訓

夢なき者は理想なし
理想なき者は信念なし
信念なき者は計画なし
計画なき者は実行なし
実行なき者は成果なし
成果なき者は幸福なし
ゆえに 幸福を求める者は夢なかるべからず

(本文中の敬称は本人の承諾を得て省略しています)

子育て支援センター

みんなできこう しずくの連弾

桜ヶ丘子育て支援センター	574 - 8002
藤沢子育て支援センター	551 - 5055
豊里子育て支援センター	587 - 1170
おかべ子育て支援センター (みらい幼児園おかべ内)	585 - 4101

桜ヶ丘・藤沢・豊里・おかべ子育て支援センター

以下の事業は予約制です 6月26日 午前9時から電話でお申し込みください

受け付け	事業名	内容	会場・日時	対象	募集人員	参加料
藤沢子育て支援センター	給食体験	給食を食べながら栄養士が食事や栄養について相談に応じます	藤沢子育て支援センター 7月12日 午前11時~正午	離乳食を終了している親子	先着7組	親300円 子250円

以下の事業は予約は必要ありません

受け付け	事業名	内容	会場・日時	対象	募集人員	参加料
各子育て支援センターに直接お越しください	積み木教室(世代間交流)	みんなで楽しく、ひのきの積み木で遊びましょう!!	おかべ子育て支援センター 6月9日 午前10時~11時30分	-	人数の制限はありません	無料
	パワフルらんど	わくわく・おはなし教室がはたらふれあい館でも楽しめます	はたらふれあい館 6月7日・21日 午前10時30分~11時30分	幼稚園や保育園に通っていない未就学児と保護者		

子育て支援センターは、日・月曜日、祝日はお休みです。

その他の事業については、市ホームページ(☎http://www.city.fukaya.saitama.jp/)をご覧ください。各子育て支援センターへ電話でお問い合わせください。

武者と生まれて描く虹

〜 畠山重忠伝説 〜



十七歳の美少年

畠山重忠は、長寛二年(1164)に市内畠山の地に生まれたといわれている。「畠山重忠公史跡公園」の隣接地にある古井戸を、地元では「重忠公産湯の井戸」と称しているが、その事実を確認することはできない。新編武蔵風土記稿には「城蹟の辺に重忠の井と唱ふる古井二あり」とあるが、これがその中の一と考えられる。

重忠は幼名を氏王丸といい、母は三浦義明の娘である。治承四年(1180)八月、源頼朝が平家追討の兵を挙げた時には十七歳でありながら、その時京都にいた父重能に代って一族を率い、大庭景親の求めに応じて平家側に味方して相模国まで兵を進めた。

その際に些細な手違いから伯父三浦義澄と戦いとなり、重忠

は三浦氏の衣笠城を攻めた。しかし、戦力的に優位であったにもかかわらず、重忠は三浦氏にわざと退路を敷いた。実は背後には大庭景親が迫ってきていて、重忠が攻撃を仕掛けなければ、大庭軍の総攻撃で三浦氏は滅亡していたかも知れなかった。

義澄はやむなく城を後にしたが、重忠の心をその布陣から読み取った祖父義明は、「重忠の華ある武者振りに武門の意地で応戦せねばなるまい」と衣笠城に居残り見事討死し、名を残した。

頼朝は、衣笠城を逃れた三浦義澄と落ち合い、さらに千葉氏や上総氏総勢三万の大軍を房総で得て、鎌倉を目指した。頼朝軍が隅田川のほとりまで来たとき、見目麗しき美少年が立っていた。畠山重忠だった。初めて重忠を見た頼朝は、「関東一の豪の者」という評判と、見た目のギャップに驚いた。